



自立し、互いに関わり合いながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を目指して

# Eジャーナルしずおか



令和5年(2023年)  
2月6日  
月曜日  
第256号

発行・編集 教育政策課 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3674 FAX 054-221-3561 E-mail kyoui\_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

## モンゴル国・ドルノゴビ県 高校生交流

モンゴル国・ドルノゴビ県高校生交流を、3年ぶりに対面で実施しました!

令和4年12月12日から19日までの8日間、39名の高校生と4名の引率者が来静しました。コロナ禍ではオンライン交流が中心でしたが、今回は待望の対面実施! 高校訪問での交流の様子を中心に、当日の様子を紹介します。

12/  
13 火

### 静岡城北高校



歓迎セレモニー、授業とともにすべて英語で進められ、案内、誘導、ペアワーク等もすべて、あらかじめ決められたバディの生徒がリードしてくれました。昨年度に引き続きランドセルの寄付も行い、今回は30を超えるランドセルが集まりました。

また、生け花、書道、茶道、弓道、琴などの日本文化を紹介してもらいました。全体会終了後は、SNSアカウント交換などの時間も設けられ、両国の生徒の笑顔があふれていました。

12/  
14 水

### 相良高校



まずは、静波サーフスタジアムでのサーフィン見学を行いました。相良高校の生徒4名によるデモンストレーション見学や、陸上でのパドルリング体験をしました。静波海岸では、初めて見る砂浜や海に驚き、写真を撮りました。

学校到着後はゴルフ、ダンス、ボルダリング、折り紙、茶道、シーグラスの6グループに分かれ、活動しました。グローバルサークルの生徒を中心に、活動内容の説明や案内をしてもらい、それぞれの活動に取り組みました。

12/  
16 金

### 吉原高校



富士市内で最も美しい富士山を仰ぎ見ることができる吉原高校を訪問しました。雲一つない快晴で、富士山をバックに記念撮影をしました。生徒会長からの歓迎スピーチのあと、日本の日常の授業を体験しました。

8つのクラスに分散し、英語で交流しました。互いに写真を撮ったり、SNSの連絡先を交換したりと、これからの繋がりができました。また、モンゴルの高校生からは、訪問の御礼に伝統舞踊が披露されました。

12/  
19 月

### お別れの時



たくさんのお土産と思い出をスーツケースに詰め込んで、モンゴルへ帰ります。フォトスポットで最後の集合写真。その後丸くなって最後の挨拶を交わし、再会を約束しました。

この39人が、これからモンゴルと静岡の友好の架け橋になってくれるはずです。

#### 担当者の声

今回3年ぶりに対面での交流が実現しました。高校生が言葉の壁を越えて交流する様子を見て、対面での交流の重要性を再確認しました。



今回の訪問の様子は、県教育委員会公式Twitterアカウント「しずおか学校広報部」で、より詳細にお伝えしています。

#モンゴル高校生交流 検索



【教育政策課】



実践NOTE 509

# 業務のその先にある目的を考える

～児童・生徒のためにできること～

教育総務課 主事 宮城島 遥

## 教育総務課総務班の業務

教育総務課総務班の業務は文書の收受発送や、表彰に関すること、教育に関する法人の指導監督、部内の連絡調整、公文書開示請求など、多岐にわたります。



教育総務課 執務室内の様子

地域の方々や保護者、職員の皆様など、さまざまな方からの電話も受け付けるため、内容に応じた適切な対応ができるよう、「教育委員会の窓口」という自覚を持ち、各部署の業務把握に努めるとともに、丁寧な対応を心がけています。

このように班の業務には庶務的なものが多く、児童・生徒、教員と直接関わる機会がありません。そのため、その先にある目的や目標が自分の中で曖昧にならないように、何のための業務なのか、その先にある目的を考えてから業務に取りかかるように意識しています。

## 「心を揺り動かす表彰式」を目指して

毎年、教育委員会では、教育、学術等で教育の振興に貢献した方や、全国規模の競技会等で最高位の賞を受賞した児童・生徒に対し、その功績を称えるために「教育委員会表彰」を行っています。



表彰式の打合せの様子



表彰式当日の様子

私は、今年度この表彰式の業務を担うことになり、「表彰式を開催することにどのような意味があるのか」「表彰することで児童・生徒に何を感じてほしいのか」を考え、児童・生徒の更なる活躍の励みとなるような式を目指し、準備・運営に取り組みました。具体的には、表彰項目の説明など

を司会の進行に含めることで表彰式の意義を参加者に感じてもらうように働きかけたり、受付に設置したモニターに受賞者の功績をまとめたスライドショーを流すことで、より多くの人に受賞者の功績について知ってもらえる機会を設ける工夫をしました。また、当日の進行がスムーズなものとなるよう、事前に関係者との調整や会場の確認を入念に行いました。



Eジャーナル255号に掲載 (R5.1.5発行)

## 表彰式を通しての気づき

表彰式当日は、児童・生徒・保護者の期待や緊張感が自分にも伝わり、その空間でしか味わえない喜びや感動を肌で感じました。参加者から「他の表彰者から刺激を受けた」という声や、「子どもの成長を感じる貴重な経験ができた」という声を聞き、この表彰式を通して、参加者の心を揺り動かすことができたのではないかと思います。また、会場では親子でコミュニケーションをとる姿が多く見られ、表彰式は子どもの努力の成果を可視化し、保護者がその偉業を再認識できる場でもあると改めて感じました。

## 業務のその先にある目的を考える

今回の表彰式では、目的を明確にし、それを達成するために自分がどのような行動をすべきかイメージすることで、主体的に業務に取り組むことができました。また、目的意識を持った行動は自らの視野を広め、新たな気づきや更なる目標を生み出すことに繋がると改めて感じました。今後も、児童・生徒のために、また、児童・生徒を支える職員のために、業務のその先にある目的を考え、自分が果たすべき役割を認識して行動していきたいと思えます。

実践NOTE 510

# 自ら課題を見つけ、主体的に解決する授業づくり

～ICTを活用した「学習エンジン」のはたらく授業を通して～

御殿場市立南中学校 教諭 沢井 寿雄

## タブレットの導入で劇的に変わる?

初めてタブレットを活用した授業を参観した教員の感想は、「難しい」「今のままでいい」等の厳しいものでした。しかし、静岡大学教育学部塩田真吾准教授をお招きしたことで、失敗を恐れず、自然体で、できることから取り組むことの大切さに気付くことができました。

それでも、ICT推進校の指定を受けた当初は、「どのようにタブレットを活用していくか」という考えに執着していました。ICTが便利なのは誰もが承知の上ですが、タブレットが魔法の道具であるかのように、活用することで授業が劇的に変化すると決めつけてしまっていました。

## ICTの活用を推進する中で、改めて…

授業の主役は生徒だと感じました。ICTを活用するかしないかではなく、生徒が主体的に学習に取り組み、付けたい力をつけるために、ICTを活用することのメリットを考え、効果的な学習道具となるような取組を考えました。



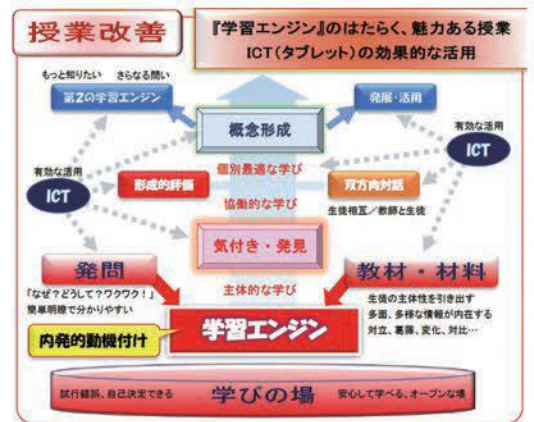
令和2年に実施した校内提案授業

生徒からは、「タブレットを活用することで、授業内容が理解しやすくなった。」等の感想が多く聞かれるようになりました。授業内外で、ICTは便利で役に立つものという考えが定着し、ICTの活用が推進されていきました。

## 学習エンジンの働く授業の構築

車のエンジンをかけるように、生徒の「知りたい、やってみよう」という思いに火をつけ(内発的動機付け)、主体的な学びを促す授業づくりを目指しました。

主体的に学ぼうとする意欲を持った生徒が、様々な教材から自分の考えを持つ。仲間や教師との対話の中で考えを深める。このスタイルを全教員で共有し、身に付けたい資質・能力を育てていく授業づくりに努めました。



## 授業をより良くしたい

この思いは全ての教員が持っています。タブレットの導入によって様々な面で学校現場は変化しました。その中で常に向上心を持ち、実践と反省を繰り返してきました。今後も組織的に授業改善を推進し、学び続けたいと思えます。



社会の授業風景



家庭科の授業風景





# 育児に伴う休暇等の取得促進について



※Webで「静岡県教育委員会の総務」と検索。県所属はNES「教養版休暇制度DB」に掲載

県教育委員会では、育児に関する休暇・休業の取得を推進しています。「育児プランシート」※等を参考に、**早めに管理職と相談の上、積極的に休暇・休業制度を活用しましょう。**管理職や同僚の皆さんも、育児参加への御理解・御支援をお願いします。

※カッコ内は事務局・県立学校のみ

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	数値目標
男性教職員の育児参加休暇等 (配偶者出産休暇、育児参加休暇)の取得率	79.4% (90.1%)	82.2% (80.3%)	100%
男性教職員の育児休業の取得率	5.3% (9.9%)	5.7% (12.1%)	(13%)

## 私の育児休業生活「大切な時間」

教育政策課 鈴木 恒央 主査

私は、2人目の子どもが産まれたことを機に、11ヶ月間育児休業を取得しました。正直、育児を取ることに少し抵抗がありました。しかし、上の子が3歳になる年度で遊びたい盛りであることに加え、生後間もない赤ちゃんがいることを考えると、妻が日中一人で家事・育児を行う負担は計り知れません。その負担を少しでも減らしたいと思い、育児休業を決意しました。また、私が育児休業を取得した令和2年5月はコロナ真っただ中。だからこそ「コロナ禍で子どもと一緒に楽しく過ごすことが重要なんだ」という思いと、「成長する子どもをすぐそばで見守りたい」という思いもありました。

育児休業の期間は令和2年5月から令和3年3月の11ヶ月でした。この期間を取得した理由は、第2子が生まれるタイミングが4月頃であったこと、新しい年度が始まり1ヶ月あれば、引き継ぎを余裕を持って行えると思ったからです。事前に課長に取得の意思を伝えてあり取得しやすい環境にあったことや、育児休業手当金が出ることも育児休業を取得する後押しになり、スムーズに育児休業に専念することができました。

育児休業を取得して多くの気づきがありました。市の施設や主催のイベントが、実は子どものことをよく考えて運営・企画されていることや、ベビーカーが通りづらい小さな段差や道幅が狭い場所が多いことなど、様々なことに気づきました。気づき以外でも、プレ幼稚園で会った保護者・子どもと交流したり、子どもに公園友達ができるのを目の当たりにしたり、子どもの「初めて」をすぐそばで見守れたりなど、仕事をしていたにはなかなか味わえない経験を得ることもできました。

もちろん大変なことも多くありましたが、それ以上にとても大切な時間を過ごせました。

育児休業取得を考えている皆さん、取りたいと思った時が取る時です。

ぜひ、子どもと、そして家族との大切な時間を過ごしてみたいはいかがでしょうか。



## 私の育児休業生活「育休は良いことづくし」

河津町立西小学校 木田 雄大 教諭

「育休は最高だよ。」他県に住む大学時代の先輩の話を聞き、以前から子供ができたなら育休を取ろうと漠然と考えていました。ですが、実際に取得しようとする「育休なんて取る必要ないんじゃない。」「1年間も取るの!?!」「二人で育休取ってそんなにやることある?」

ある程度予想はしていましたが、周りの反応はこのようなものでした。しかし、私には、「家族の時間を大切にしたい」「自分も育児に主体的に取り組みたい」という思いがあり、第一子が誕生した翌月、4月1日から1年間育児休業を取得しました。12月の初めに校長先生に「来年度は育休を取りたいです。」と話をする、すこく良いことだし、応援する、と話してくださり、安心しました。結果的にこのとき勤務していた学校を3月で異動になり、新しい学校でいきなり育休を取るということになりましたが、そちらでも温かく受け入れてくださり、本当にありがたかったです。

今は育休を取って本当に良かったと感じています。特に、初めての子供であり、お互いに何も分からない中で、一人が子供をみている間に必要な情報を調べたり、交代で休めたりしたことは、非常に助かりました。なかなか寝ない、背中スイッチで起きてしまう、なぜ泣いているのか分からないなど、聞いたことはありましたが、実際に経験するとこんなに大変なかと感じました。

また、子供の些細な成長を見逃さず、妻と一緒に分かち合えたことは本当に幸せな時間だったと思います。二人とも育休を取得

したので、普段はあまり取れない趣味や勉強の時間も生み出すことができました。他にも平日のあまり混まない時間に家族で出かける、遠方の妻の実家に泊まりに行く、近くを散歩するなど、育休の良かったこと、育休を取ったおかげでできたことを挙げてとキリがありません。

妻と二人で育児休業を取得しているの、よく「お金は大丈夫なの?」と心配されることがありましたが、それについてもパパママ育休プラス(※)の制度で育児休業給付金が1歳2ヶ月まで延長されたので、特に問題はありませんでした。

現在、第二子を授かりましたが、今回は育休を取得しませんでした。私が長男のときに育休を取得しやすかったのは、3月生まれというタイミングもあったと思います。その代わり今回は、朝と帰宅後のわずかな時間でも積極的に家事や育児に取り組むようにしています。それは、1年間の育休の経験から、育児の大変さ、やりがいを感じる事ができたからであり、また何をしたらよいか分かるからだだと思います。

家族の時間だけでなく自分の時間も大切にできる育休は本当に良いことづくしです。ぜひたくさんの人に取ってもらいたいと思います。また、もっと気軽に取れる社会になってほしいと思います。

※公立学校共済組合静岡支部HP「育児休業手当金」参照



【教育総務課】



# 令和4年度 ふじのくに防災人材育成事業

# 被災地訪問研修



## 事業設立の経緯と概要

県教育委員会では、東日本大震災が発生した平成23年以来、毎年8月に岩手県を訪問し、ボランティア活動を通じて被災地の方々との交流を続けてきました。その後、平成28年度からは「被災地訪問研修」へと形を変え、防災人材の育成に取り組んでいます。この研修は、県内の高校生が現地での学びを通じ、自ら設定した防災テーマについて探求を重ね、その成果を学校や地域等に向けて発信する貴重な機会となっています。



## 研修内容

令和4年8月、事前研修において研修目標の整理を行った後、1泊2日の行程で岩手県・宮城県を訪問しました。初日に訪問した「いのちをつなぐ未来館」では、震災当時と同じ避難路を歩きながら、迫り来る津波の恐怖についてお話を伺いました。2日目には、「東日本大震災遺構伝承館」を訪問した後、津波によって児童74名、教員10名の命が奪われた「震災遺構 大川小学校」を訪問しました。

## 成果報告会

訪問後には、研修テーマのまとめと報告会用の資料作成を行い、学んだことをそれぞれの学校で発表しました。さらに、生徒達自身が主体的に、地域の小中学校等においても成果報告会を企画するなど、研修成果をより広く普及・発信するように努めました。大規模災害を風化させない、そして、地域防災の主体として活躍できる高校生の育成に向けて、今後も取り組んでまいります。



【健康体育課】



# 「全国学力・学習状況調査」にみる理科授業改善のポイント

今年度の調査結果の分析から、静岡県の子供の傾向として、「問題の見だし」について、気付いたことを基に分析して、解釈し、適切な問題を見出すことに課題が見られました。

## 小学校理科で実際に出た問題

(令和4年度) 2設問(4)

【出題の趣旨】自然の事象・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。

(4) 砂糖水をこおらせた物は、紅茶に入れるとしずみました。

水をおこらせた物は、紅茶にうくの、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。

水を入れても、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。

砂糖水をこおらせた物だから、水にしずんだのかな。砂糖水ではない、ほかの水よう液をこおらせた物でも試してみたいね。

はるとさんは、試してみたいことをもとに、【問題】を見つけました。はるとさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

## 小学校の学習過程例(問題解決の過程)



自然の事象・現象に働きかけて得た事実について、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見出すことができるようになるためには、既習の内容や生活経験を相互に関連付け、対話を通して気付いたことを出し合い、差異点や共通点を整理し、他者の気づきを生かしながら、観察・実験等を通して解決できる問題を見出すことが大切です。

問題解決の過程を通じた学習活動を行い、資質・能力が育成されるよう指導の改善を図ることが必要です。

国立教育政策研究所の「理科映像指導事例集」もチェック!



理科映像指導事例集 検索

【総合教育センター】



# ふじのくに 地域・大学フォーラム

Zoom  
ウェビナー  
開催

自治体や企業からの地域課題に取り組んだ県内大学のゼミや研究室、大学教員の地域研究、高校生の取組みを発表します。さまざまな年代・ジャンルの発表や意見を聞いて、新たな交流が始まることを期待しています。オンライン開催なのでどの時間帯からでも視聴いただけます。ぜひお気軽にご参加ください。

高校生の取組発表もあります!



日時 **2月11日(土・祝)・12日(日)**  
13:00~16:30

事前申込は  
こちら



プログラム  
・ゼミ学生等地域貢献推進事業の成果発表(32件)  
・共同研究助成事業の中間発表(6件)  
・高校生の発表(5件程度)



ゼミ/研究室の取組みとは?

地域課題解決のため、地域と一体  
となって実践的な研究に取り組ん  
でいます。



公益社団法人 The Consortium of Universities & Local Communities in Shizuoka  
ふじのくに地域・大学コンソーシアム

【大学課】 TEL 054-249-1818

# 県議会高校出前講座

~高校生と県議会議員の意見交換会~

若者の政治への関心をより高めるとともに、県議会を身近に感じてもらうため、県議会では「高校出前講座」を実施しています。令和4年度は、県立・私立全12校で実施しました。「校則や学校設備について」などのテーマや身近な話題などについて、生徒7人程度のグループに議員が1人ずつ加わり、活発な意見交換が行われ、実施校からは大変有意義な機会だったとの感想が寄せられました。

### 生徒の感想

- ◆ 議員に対して堅苦しいイメージがあったが、それが無くなるほど、楽しく意見交換ができた。
- ◆ 自分の知らない静岡の問題や取り組みについて考えるいい時間になった。

### 担当教員の感想

- ◆ 教員以外の大人の意見、特に実際に地域のために活動している議員の視点で意見をいただくことができ、生徒の今後の活動の道標となった。
- ◆ 生徒も意見交換が楽しかったようで、講座が終わった後も議員との話の内容を教員に伝えてくれた。

実施後のアンケートでは、  
**89.2%の生徒が**  
「良かった」と回答!

令和5年度も実施予定です!



県議会HPで、  
実施した様子を  
紹介しています▶



授業やLHRなどにおける実施については是非ご検討ください。【議会事務局 政策調査課】

# ふじのくに民俗芸能 フェスティバルを開催します!

ユネスコ無形文化遺産に新規登録された「風流踊」の徳山の盆踊、有東木の盆踊のほか、静岡浅間神社廿日会祭の稚児舞楽、西浦の田楽、静岡県立横須賀高校郷土芸能部が出演!



日時 **2月26日(日)**  
13:00~15:30

会場 **静岡市民文化会館大ホール**

定員 **500人**  
(入場無料・要事前申込・先着順)

詳しくは、  
HPで御確認ください!▶▶▶



【文化財課 文化資源活用班】

# 観音山子どもフェスティバル

~春の観音山で家族の思い出を作りませんか~

開所50周年を迎える観音山少年自然の家で春の一日を過ごしませんか。山登り、沢遊びなどの自然体験活動や自然物を使ったゲームを楽しんでもらいます。毎年多くの御家族に参加していただき、好評をいただいているイベントです。皆様の御参加お待ちしております。



実施日  
① 4月22日(土) ② 4月23日(日)

会場  
観音山少年自然の家

定員  
各回 20 家族程度

観音山HPよりお申し込みください。  
(3月18日~4月1日)



【観音山少年自然の家】

# NEW WAVE

## 東海大学は、 新しい波をおこす。

FROM TOKAI UNIVERSITY

### OPEN CAMPUS 2023年3月19日(日)

生まれ変わった  
静岡キャンパスを体験しよう!

人文学部 海洋学部  
詳細は本学HPをご確認ください →



## 東海大学

問い合わせ先:  
スルガバйкаレッジ静岡オフィス(企画・広報担当)  
〒424-8610 静岡市清水区折戸3丁目20番1号  
TEL: 054-337-0144 (直通)

広告